

コンサイス
外来語辞典

コンサイス

外来語辞典

三省堂編修所 編

三省堂



コンサイス外来語辞典

第1刷発行／昭和47年5月1日

第12刷

編者／三省堂編修所

発行者／株式会社三省堂 代表者 亀井 要

印刷者／株式会社三省堂 三鷹工場

発行所／株式会社三省堂

〒101 東京都千代田区神田神保町1の1

電話 東京 (03) 293-3441 (代)

振替口座 東京 54300

商標登録番号 377381

<912 pp.>

1014

5. ★印のあとに、その項目・その語義の関連・補充記述を行なった。
6. 固有名詞以外的一般語には、借入された時代を、各見出しごとに、語義が2つ以上あるときはその語義ごとに、明示した。
7. 理解を助けるために、数十のカットを挿入した。

本書がこのような姿で完成したのは、ひとえに吉沢博士、およびその編修陣のお力によるものであって、ここに厚く御礼を申し上げる。

なお、上に挙げた「日本外来語辞典」をはじめとする、数点の先行の外来語辞典、それに内外の国語辞典・百科事典は、本書にとって貴重な先達であった。同様に、新聞・雑誌・論文なども重要な情報源であったが、とりわけ、三宅 鴻教授の「英語から日本語に入った外来語(改訂版 1970 年)」は十分に参考にさせていただいた。特記して、謝意を表する次第である。

編修には、与えられた時間内で、可能な限りの努力をしたつもりであり、本書には新見解もいくつもあるが、しかし、所詮この種の辞書に完璧は望み得ない。見出し語の選択、その表記、原語の国籍・原つづり・語源、語義・用法、借入年代など、どれをとっても異論の出る余地がある。異説は、気がつく限り、またスペースの許す限り、収録したが、なお、誤記・遺漏・脱落を恐れる。

われわれは、本書を少しでもより完全に近いものに育てて行く覚悟であるが、使用者各位の建設的なご助言とご指摘を、とくにお待ちしている次第である。

なお、原稿の整理・編修の段階では、

木本幸雄 鈴木達夫 関口洋子 橋本文子 西 良子 花田啓子 木田裕美子
江上良子 小沢悦夫 大黒重治 大平 昇 野村泰郎
の諸氏をわずらわしたことを謝する。

昭和 47 年(1972) 2 月

は し が き

小社が大正4年(1915)5月、上田萬年・高楠順次郎・白鳥庫吉・村上直次郎・金澤庄三郎共編の「日本外來語辭典」を出版して、すでに2世代60年近くの年月がたっている。この間の日本語の語彙⁽¹⁾中における外來語は、大幅な変動を受け、また現に受けつつある。相当数が死語・古語となったが、それを数倍上まわる数が生まれ、日本語に定着した。

現行の国語辞典はいずれも、これらの外來語の収録・解説に力を入れているけれども、全ページをあげて外來語の解説にあてた手ごろな専門辞典が必要、という社の内外からの要求にこたえるべく、1960年代後半ないし70年代初めの観点から、あらためて現代国語中の外來語に焦点を合わせて編修されたものが本書である。

編修主幹には、東京外国語大学教授 吉沢典男博士をわずらわし、博士を助けて、水木宏・金井由允・金丸健二・田中克彦・山口雄輔・若林一郎・有高扶桑・森 圭弘・永瀬雄吉の各氏が原稿執筆・校正に参加され、編修は順調に進められた。

本書の特色のおもなものを挙げれば、

1. 地名・人名・作品名・商品名などの固有名詞を含む、約20,000語を収録した。特殊な専門語・職域語・時事語をのぞいて、現在用いられている外來語の大部分は検索できる、と考えられる。
2. アルファベットで略号式に表記されることが多いと思われるものは、巻末にまとめた。カタカナでも表記されるものは、本文からでも、この「アルファベット語」の部からでも、検索できるようにしてある。
3. 記述は正確・平明を第一とし、約束ごとは可能な限り少なくして、自明であることを心がけた。
4. 必要に応じて、原語(固有名詞を含む)の語源を示した。

使用上の注意

1. 見出し語

1.1 本書の書名にいう「外来語」とは、外国語から日本語に借り入れられ、日本語の語彙(?)として市民権を獲得した語をさす。さらに、英語の単語を2つ以上つないで、日本人が独自に作り上げた複合語のたぐい(いわゆる和製英語、たとえばサーブレスビーチ)や、2つ以上の異なる外国語を結合して作った、いわゆる和製洋語(たとえばテーマ・ソング)を含んでいる。

1.2 見出し語は、カタカナの大字体活字を使用し、五十音順に配列した。検索の便宜上、長音記号「ー」は無視して並べてある。ただし、「ー」を含まない同形の語がある場合には、「ー」を含まない語を先に配列した。たとえばクロスはギロスの直後にある。

1.3 清音・濁音・半濁音の順に配列した。バン バン パンの順となる。

1.4 ウェストン祭、磁気ドラム、関東ローマ層のような和語との複合語は、その含む外来語の見出しのもとに、追いつめて記述してある。ウェストン祭はウェストン、磁気ドラムはドラム、関東ローマ層はローマの項にある。

1.5 カタカナでは同一の表記になるが、原語の異なるものは、見出し語の右肩に¹ ² の数字を付けて、別見出しとした。バス¹ [bass] バス² [bath] バス³ [bus] 配列は原語のアルファベット順。ただし固有名詞は他よりもあとに置いた。

1.6 原語が2つ以上の単語からなる複合語の場合、ハイフンの有無にかかわらず、見出し語には各要素を示す

ために、「-」を挿入した。ただし、原語がひとつづりのときは、この限りではない。

アイス・クリーム・サンデー [ice-cream sundae]

アイスフール [ice-fall]

2. 表記法

2.1 原則として、昭和29年3月国語審議会発表の「外来語の表記」によったが、現実に行なわれている有力な別表記も、とくにそれが離れた位置に配列される場合は、見出しとして収録した。

2.2 原音が二重母音である場合、カタカナ表記で、長音にするか、母音2つをもつてするかは、現実の使用度を考慮して決定した。

メイ [May] メーデー [May Day]

決定しかねる場合は、できるだけ両形を示して、どちらからでも検索できるように心がけた。

2.3 促音「ッ」の挿入も、2.2と同様の配慮を行なった。

2.4 ラジオ [radio] チーム [team] のように表記が固定しているものは別として、一般に -di-, -ti- など -ディー、-ティ-を当てるか、-ジ、-チ-を当てるかは、それが外来語としてフレッシュなものか否かにもより、また個人差も考えなければならぬ。いずれか一方に決しかねるものは、できるだけ両形で検索可能のようにした。

3. 原語

3.1 見出し語の直後に [] につつんで示した。

3.2 原語が ① 英語(アメリカ英

語を含む)と ② 固有名詞と ③ 直前の原語国籍と同一である場合(3.12 参照)は、原則として、その原語国籍名の表示を省略した。ただし、少しでも疑問のおきそうな場合には、英下など并表示してある。

3.3 原語名の中には、略語を用いたものもある。これらについては、9. 略語表を参照していただきたい。

3.4 原つづりは、原則として、1種のみを挙げ、異つづりは省略した。

3.5 ロシア語、ギリシア語などラテン文字を用いない言語は、ローマナイズして示した。ただし、長音の表示は、あえて省略した。

3.6 中国語の場合は、ウェード式ローマ字つづりと漢字を示した。

ギョウザ [甲 chiao tzu (餃子)]

3.7 原つづり中、斜字体(イタリック)で示した部分は、それが見出しの外來語表記に直接あらわれない部分(または、逆にあらわれている部分、とくにアルファベット語の場合)である。斜体・立体の使い分けは、要するに、当該部分に注意を向けていただくための工夫にすぎない。

3.8 日本で独自に作られた、いわゆる和製英語・和製洋語は、⁴ 次のように示してある。

マリッジ・リング [甲 < marriage + ring]

ラボ [甲 < laboratory]

テーマ・ミュージック [甲 < Thema + music]

3.9 空見出しで、主項目を参照する場合、同一原語であれば、それを示すことは省略した。

ケビン⇒キャビン。

3.10 短縮語で、その短縮形も原語にある場合は、原つづりを示した。日本語に入って独自に作られた短縮語は、3.8 のように示すが、または原語欄を一切省略した。

アンブ [amp]⇒アンブリファイア。

パーマ¹ ⇒パーマネントウェーブ。

3.11 原語における本来の語義を、()につづんで示した場合がある。グース [goose (がちょう)] 洋服店で用いられる重いアイロン。(現)★柄ががちょうの首に似ているところから。

3.12 原語の語源を示した場合がある。この場合、究極の語源を示したものと、隣接の語源を示したものとがある。

グロッケンシュピール [F Glockenspiel < Glocken (鐘) + Spiel (演奏)]

この例では、グロッケンシュピールはドイツ語 Glockenspiel が原語であって、この原語は同じくドイツ語 Glocken (鐘) と Spiel (演奏) の2語からなる複合語であることを示している。<以下の語が、前と同一国籍である場合、原語名の表示を省略した。テレビジョン⁴ [television < tele (遠く) + vision (見るもの)]

この例では、テレビジョンの原語は英語の television で、これはギリシア語の tele (遠く) とラテン語 vision (見るもの) の2語からなることばであることを示している。

テトラポッド [tetrapod < tetra (4つの脚)]

これを敷衍すれば、テトラポッドの原語は英語の tetrapod で、この英語はギリシア語の tetra (4つの) と同じく pod (脚) の2語からなっていることを示している。語形が直前の語(国籍を問わない)と同一、または極めて近似している場合は、原つづりを省略した。

カッター [cutter < cut (切る) + er (…の道具)]

この例では、カッターの原語は英語の cutter で、それは動詞 cut から生まれたものであることを示し、cut の語源はカットの項に挙げてある。

ディスポーザー [disposer < disposer (処理する)]

この例では、本来は disposer < dis-

pose<u>disponere であるが、中間の dispose が外来語の見出しとして不要のため、ラテン語の disponere を語源とした。もし dispose の見出しがあるならば、次のようになるはずである。

ディスポーザー [disposer<dispose]
ディスポーズ [dispose<u>disponere
(処理する)]

3. 13 複合語のそれぞれの要素が独立見出しとしてある場合には、語源はそれぞれの独立見出し語にあるので入れなかった。

3. 14 原語あるいはその語源に定説のないもの、疑問のあるものには？を付けた。

オーケー [OK<? all correct=all correct (まちがいない)] なお、この項目の★以下を参照していただきたい。

3. 15 登録商標(商品名・会社名など)には、原語の前記号と表示した。

4. 語義

4. 1 同一項目に対して、2つ以上の語義があり、それらが (a) 借入時代が異なるとき (b) 位相が異なるなど差違の大きなとき、①②③…の番号をそれぞれの文頭に付けた。

5. 位相

5. 1 【 】中の表示は、それぞれの見出し語、または語義の専門分野を示す。ときには説明の補助的手段としても活用した。

5. 2 用語は自明であることを心がけたが、若干の略語を用いたものもある。これらについては、9. 略語表を参照していただきたい。

6. 借入時代

6. 1 その語・語義の借入時代を語義記述の末尾に〈 〉でつつんで示した。ただし、地名・人名・作品名などの固有名詞には、この表示は省略して

ある。

6. 2 この部分に用いた略語は、9. 略語表を参照していただきたい。

7. 種々の記号

7. 1 ↔ その語・語義の反対語・反対語義、あるいは対となる語・語義を、この矢印の次に示した。

語義区分 ①… ②… の前(つまり、原語欄の直後)に置かれた↔は、2つ以上ある語義のすべての対語であることを意味する。

7. 2 ⇨ 「次の見出し語を見よ」の意味で用いた。

7. 3 ★ その項目、その語義に関する補足説明を、この印の次で行なった。

7. 4 ~ 追いかみ見出し中に、主項目の代用として用いた。

ソーダ

苛性~ (=苛性ソーダ)

~水 (=ソーダ水)

~灰 (=ソーダ灰)

7. 5 ~ 見出し語、またはその原つづりの代用に用いた。

なお、次のような使用例があるので、ご注意いただきたい。

ソフィスト [Sophist] の項で ② [s~] とあるのは、②の語義の場合、原つづりは sophist となることを示すもの。パック [puck] の項で ② [P~] とあるのは、②の語義の場合、原つづりは Puck となることを示す。

8. 特殊な用語

8. 1 「邦転」原語の発音から大幅になまって日本語に定着した語の場合、この用語を用いた。ダー、プディングの項を参照していただきたい。

8. 2 「邦略」日本語に入って独自に作られた短縮形・省略語をさす場合、この用語を用いた。

ラボラトリー [laboratory] をラボとするのは邦略であり、ラブ [lab] は英語における短縮形である。

パーマネント-ウェーブ [permanent wave] をパーマ・ネント [permanent] とするのは、日・英共通の短縮形であり、パーマは邦略、英語でのもう1つの短縮形はパーム [perm] である。

マス・コミュニケーション [mass communication] をマスコミとするのは邦略であり、また、ビジネス・ガール [business girl] をBGとし、OBをold boy (同窓生)の意に用いるのは、それぞれ邦略である。

9. 略語表 (いずれも、自明なものは省略した)

9.1 借入年代

- 〔奈〕 奈良時代
- 〔平〕 平安時代
- 〔鎌〕 鎌倉時代
- 〔室〕 室町時代
- 〔安・桃〕 安土桃山時代
- 〔江〕 江戸時代
- 〔明〕 明治時代
- 〔大〕 大正時代
- 〔昭〕 昭和2—20年(太平洋戦争終了まで)
- 〔現〕 昭和21年以後

9.2 位相語の表示

- | | |
|------------|------------|
| 〔医〕 医学 | 〔船〕 造船 |
| 〔映〕 映画 | 〔俗〕 俗語 |
| 〔化〕 化学 | 〔地〕 地質学 |
| 〔学生〕 学生用語 | 〔哲〕 哲学 |
| 〔楽〕 音楽 | 〔天〕 天文学 |
| 〔機〕 機械 | 〔電〕 電気 |
| 〔魚〕 魚類 | 〔電算〕 電子計 |
| 〔経〕 経済学 | 算機 |
| 〔劇〕 演劇 | 〔動〕 動物・動物学 |
| 〔建〕 建築・建築学 | 〔農〕 農業 |

- | | |
|------------|------------------|
| 〔拳〕 ボクシング | 〔バスケット〕 バスケットボール |
| 〔言〕 言語・言語学 | 〔バレー〕 バレーボール |
| 〔工〕 工学 | 〔美〕 美術 |
| 〔広〕 広告 | 〔文〕 文学・文芸 |
| 〔写〕 写真 | 〔服〕 服飾・繊維 |
| 〔植〕 植物・植物学 | 〔法〕 法律・法学 |
| 〔心〕 心理学 | 〔放〕 放送 |
| 〔数〕 数学 | 〔薬〕 薬品・薬学 |
| 〔政〕 政治 | 〔理〕 物理学 |
| 〔生〕 生物・生物学 | 〔陸上〕 陸上競技 |

9.3 原語の国籍

- | | |
|-----|----------------------|
| ア・イ | アメリカ・インディアン語 |
| イ | イタリア語 |
| 英 | 英語(アメリカ英語を含む) |
| オ | オランダ語 |
| ギ | ギリシア語 |
| 古英 | 古英語(400—1100年ごろ) |
| 古高下 | 古高地ドイツ語(800—1100年ごろ) |
| 古ノ | 古ノルド語 |
| サ | サンスクリット |
| ス | スペイン語 |
| 中 | 中国語 |
| 中英 | 中英語(1100—1500年ごろ) |
| 朝 | 朝鮮語 |
| トル | トルコ語 |
| ド | ドイツ語 |
| 和 | 和製英語・和製洋語 |
| フ | フランス語 |
| ペ | ペルシア語 |
| ポ | ポルトガル語 |
| ラ | ラテン語 |
| ロ | ロシア語 |

なお、古フ、中ドなどとあるのは、古フランス語、中ドイツ語などの略。

ア

ア式蹴球〔あしきゅう〕 ⇨ アソシエーション・フットボール。

アイアイ [aye-aye (＜鳴き声)] ユビザル。マダガスカル島特産。リスザルとも。(昭)

アイアコス [アイアコス] ギリシア神話で、ゼウスと川の神の娘の子。アイギーナの王。死後は冥府の鍵の守護神。★英語ではイーアコス。

アイアン [iron (鉄)] ゴルフ用具の1つ。頭部が鉄製のクラブ(打棒)。(明) ⇨ ウッド。

アイオリ [アイオリ] <古フ ai (にんにく) + iol (油)] オリーブ油入りのにんにくマヨネーズ。(明)

アイオロス [アイオロス] ギリシア神話で、風の支配者。海神ポセイドンの子。(イ)

アイオワ [Iowa] 米国中央北部の州。州都デモイン。コーン・ステート [Corn State (トウモロコシ州)] の異名があるように農業生産高は米国一。★インディアン語で「すばらしい土地」の意。

アイガー [Eiger] スイス中部、アルプスの高峰、3975 m。エンゲフラウ、メンヒとならんで俗にアルプス三山といわれる。★1858年英国人バrintンが初登頂。大正10年(1921)、楢有恒が北東稜を征服。

アイカップ [eyecup] ① 洗眼コップ。硼酸(ほうさん)水などを入れ、目にあてて洗眼する。(現) ② (顕微鏡・計測器などで) 漏光防止・目の保護のために接眼レンズ部につけるコップ状の付属品。(現)

アイカメラ [eye-camera] 眼球運動記録装置。眼球に光をあて、その反射光をフィルムに記録、視線の動きを分析する。(現)

アイキャッチャー [eye-catcher (人目をひくもの)] 【広】 一目で特定の会社やその製品を連想させる広告宣伝用の絵や図柄。(現) ⇨ キャッチフレーズ、トレード・キャラクター。

★beauty (美人), beast (動物), baby (赤ちゃん)の3Bが効果ありとされる。

アイク [Ike] ⇨ アイゼンハワー。

アイゲン [マンフレッド・、Manfred Eigen 1927-] 西独の化学者。短いエネルギーパルスによる平衡状態攪乱でもたらされる超高速化学反応の研究によって、1967年ロナルド・G. W. ノリッシュ、ジョージ・ポーターとともにノーベル化学賞受賞。

アイコノクラズム [iconoclasm < ェikon (聖画像) + klasma (こわす)] 偶像破壊。陋習打破。(昭)

アイコノスコープ [iconoscope < ェikon (像) + scope (見るもの)] テレビ撮像管の1種。像を点の集合に分解、その明暗を電流に変える。性能はイメージ・オルシコンに劣るので、現在はフィルム送像用。(昭) ★1933年、米国のツァリキンの発明。

アイシェード [eyeshade] 光線よけの目(め)びし。サンシェードとも。(昭)

アイシャドー [eye shadow (陰)] 目ぶたに陰影をつける化粧品。青・黒・茶など各種の色がある。(昭)

アイシング [icing] 自動車で気化器に氷の被覆が生ずること。寒冷多湿のとき気化器が氷に閉ざされ不調に陥ること。(現)

アイジングラス [isinglass < 中オ huiszen-blas < huiszen (ちょうざめ) + blas (浮き袋)] にかわの1種。にべ。魚の浮き袋から作る白色の高級品で、高級料理・宝石接着剤用。(昭)

アイス [ice (氷)] ① 冷やしたコーヒーやミルクなど。⇨ ホット。(昭) ② 【俗】 高利貸。(明) ★アイス・キャンデーの訳「氷菓子」をもじって。③ ⇨ アイス・キャンデー、アイス・クリーム。



アイス-ウォーター [ice water] 氷片を入れた飲み水。(氷入りの)おひや。(昭) ★英語ではアイスト-ウォーター [iced water] とも。

アイスウォール [icewall] 〔登山〕氷壁。氷雪におおわれた岩壁。(現)

アイス-キャンデー [日<ice+candy] 氷菓子の1種。果汁やシロップを棒状その他の形に凍らせたもの。(昭)

アイス-キューブ [ice cube (立方体)] 立方体の氷片。(現)

アイスキュロス [日 Aischylos 前 525-前 456] 古代ギリシアの悲劇作家。3 大悲劇詩人のひとり。ギリシア悲劇を確立。作風は雄大・荘重。代表作「ペルシア人」「縛られたプロメテウス」「オ레스ティア」。エスキュロスとも。

アイス-クリーム [ice cream] 氷菓子の1つ。牛乳・砂糖・卵黄を混ぜ合わせて香料を加え、クリーム状に凍らせたもの。略してアイス。なまてアイスクリーム。(明) ★脂肪分 3% 以上のものをさし、アイス-キャンデー、シャーベットと区別する。

アイス-クリーム-サンデー [ice-cream sundae] アイス-クリームにチョコレートや果汁をかけたもの。サンデーとも。(昭)

アイス-クリーム-ソーダ [ice-cream soda] アイス-クリーム入りのソーダ水。(昭)

アイス-クリーム-パフェ [ice-cream parfait] アイス-クリーム、生クリームに、チョコレートや甘く煮た果実を飾りつけに盛った菓子。(昭) ⇨パフェ。

アイス-コーヒー [ice coffee] 氷を入れた冷やしコーヒー。⇨ホット-コーヒー。(大) ★英語ではアイスト-コーヒー [iced coffee] とも。大阪ではクール-コーヒーとも。

アイス-ショー [ice show] 氷上で行なう見せもの。スケーターによるダンス・劇・曲技などがある。(現) ★米国の「ホリデイ-オン-アイス」一座が有名。同座の日本初演は昭和 26 年 (1951) 東京、後楽園。

アイス-スケート [ice skating] 氷上滑走。スケート靴をはいて氷の上をすべるスポーツ。スケートとも。⇨ローラースケート。(昭)

アイス-スマック [ice smack (風味)] 薄いチョコレートで包んで筒状その他の形にしたアイスクリーム。スマックとも。(現)

アイス-ダンシング [ice dancing] 〔スケート〕フィギュア競技の1種。男女が対になって氷上を音楽にあわせて踊るように滑る競技。(現)

アイス-ティー [ice tea] 氷で冷やした紅茶。(大) ★英語ではアイスト-ティー [iced tea] とも。正式には氷を通すだけで、氷塊を加えない。

アイス-テクニク [ice-technique] 〔登山〕氷や固い雪の上を登り降りする技術。(現)

アイス-ハーケン [日 Eishaken<Eis (氷)+Haken (くさび)] 〔登山〕氷壁を登り降りするために打ちこむくさび。略してハーケンとも。⇨ロック-ハーケン。(昭)

アイスパーン [日 Eisbahn (スケート場)<Eis (氷)+Bahn (道, 表面)] 氷化した雪面。一度溶けたり、踏み固められたりした雪面が凍りついた状態。(現)

アイスハンマー [日 Eishammer<Eis (氷)+Hammer (槌(づ)))] 〔登山〕アイスハーケンを打つのに使う鉄製のハンマー。(昭)

アイス-ピック [ice pick] 氷を砕く錐(づ)。(昭)

アイスフォール [icefall (氷の滝)] 氷河の急傾斜の部分に、崩れ落ちる氷塊で滝のようになっている危険な場所。氷瀑。(昭)

アイスボックス [icebox (氷箱)] ① 氷を使って冷やす冷蔵庫。(明) ★冷却装置付きの冷蔵庫や氷室はリフリーズレーター [refrigerator] という。② (とくに) 携帯用の簡易冷蔵庫。(現)

アイス-ホッケー [ice hockey] 氷上ホッケー。スケート靴をはいて氷の上でするホッケー。1 チーム 6 人。(大) ★大正 10 年 (1921) ごろ日本でもチームが誕生、同 13 年に長野県の諏訪(湖)で初の公式試合が行なわれた。

アイスランド [Iceland (氷河の国)] 北極圏に近い北大西洋上の国。アイスランド共和国 [Republic of Iceland]。首都レイキヤビク。1918 年デンマーク王を元首とする独立王国となり、1944 年デンマークから完全に独立。★国歌「おお神よ、君のみ名をばたえん (O gud vors lands)」。公用語ア

イスランド語。通貨クローナ。アイスランドは英語名。現地名イースランド [Ísland]。

アイスリンク [ɪ<ice+rɪnk] (ローラースケート場) に対して、人造氷のスケート場。スケートリンクとも。(昭) ★英語では単にリンク。

アイゼナハ [Eisenach] 東ドイツ、チューリンゲン州にある工業都市。作曲家バッハの生地として知られ、古城バルトブルクも有名。

～綱領 1869年、アイゼナハで出されたドイツの社会民主労働党(のち社会民主党)の結成宣言。

アイゼン [f. Steig-eisen] 鉄かんじき。登山靴の底につける滑りどめの金具。クランボンとも。(昭)



アイゼンシュタイン アイゼン [ゴットホルルト ～, Gotthold Eisenstein 1823-52] ドイツの数学者。整数論、関数論を究明、不変式論の真の創始者として知られる。

アイゼンハワー [ドワイト ～, Dwight David Eisenhower 1890-1969] 米国の軍人・政治家。第34代大統領(1953-61)。陸軍元帥(将軍)。愛称アイク。

アイゼンハワードクトリン [Eisenhower Doctrine (教義, 信条)] アイゼンハワー大統領が、1957年1月議会に送った中東問題に関する特別教書、およびその骨子となっている考え方。ソ連の侵略阻止・中東諸国に対する経済援助を主眼とする。

アイソスタシー [isostasy<ɜ isostasios<iso (平等な)+statikos (安定)] 地殻均衡。地殻内部の構造を重力に関係づけて説明する理論。地殻はその下のより密度の高い層の上に浮いているようなもので、表面の高さの高いところほど、その下部の地殻も厚く、低いところの地殻は逆に薄いとする理論。(明) ★G.B. エアリーの説(1855年)と、J.H. プラットの説(1858年)があるが、エアリー説のほうが合理的といわれる。

アイソタイプ [isotype] 視覚言語、絵文字言語。事物を文字・数字に代わって表わす象徴的図形や記号。地図・統計図表・標

識などに用いられる。(現) ★[international system of typographic picture education (印刷図形教育についての国際方式)] の略。1920年代、ウィーンの哲学者ノイラートの創案。

アイソトープ [ɜ isotope<iso (同じ)+top (場所)] 同位元素。原子番号が同じで質量数の異なる元素。水素と重水素など。普通、放射能を持つラジオ-アイソトープ(放射性同位元素)をさす。天然と人工とがある。(現) ★とくにアイソトープであることを示すときには、元素記号の肩に質量数を記入する。

アイソボス [ɜ Aisopos] ⇨ イソップ。

アイソレット [isolate] ⇨ イソレット。

アイダ [イ Aida] ベルディ作曲の歌劇。4幕。1871年カイロで初演。古代エジプトの将軍ラダメスと、エチオピア王女アイダの恋愛悲劇。グランドオペラの代表作。★本邦初演は大正3年(1919)、ロシア大歌劇団(帝国劇場)。邦人初演、昭和16年(1941)、藤原歌劇団(歌舞伎座)。

アイダホ [Idaho] 米国北西部の州。ロッキー山脈西側の鉱・林・農業地帯。州都ボイジー。★インディアン語の「日が昇る」と「起きる時間だ」から。

アイデア ⇨ アイディア。

アイディア [idea<ɜ (形)] イデアとも。① 考え、意見。(明) ② 【文】構想、着想。(明) ③ (とくに、新奇な) 思いつき。(昭) ④ ⇨ イデア。

アイディアリスト [idealist] ① 【哲】観念論者。(明) ② 理想家、理想主義者。(明)

アイディアリズム [idealism] ① 【哲】観念論。(明) ② 理想主義。(明)

アイディアル [ideal] 理想的な、空想的な、典型的な。(明)

アイディル [idyll<ɜ eidullion (小さな絵)] ① 【文】田園詩、牧歌、田園文学。(大) ③ 【楽】田園曲、牧歌的な情景。(大) ⇨ バストラル。

アイテム [item (項目, 細目)] 【電算】磁気テープに記録されている1件分のデータ。(現)

アイデンティファイ [identify<中う iden-



ticus<idem(同じ) 同一視する, 同一物だと感ずる。(昭)

アイデンティフィケーション [identification] ① 同一視すること。同一物だと感ずること。(昭) ② 広告表現に一貫性, あるいは統一性をもたせること。種々の刊行物・放送を通して行なわれる広告の相乗効果を高めるための方法。(現)

アイドカの法則 ⇨ AIDCA の法則。

アイドフォア [eidphore] ⇨ アイドホール。

アイドホール [F Eidophor < ɛ eidos (形)+pherein (運ぶ)] テレビ画面の拡大投射装置。1939 年ごろ, スイス人フリップ・フィッシャーが考案。アイドフォアとも。(現)

アイドマの法則 ⇨ AIDMA の法則。

アイドリグ [idling] ① (機械類の)空転, 遊転。(現) ② とくに自動車でエンジンの遊転。(昭) ★回転数調整の基準となる。

アイドル [idol < ɛ eidoion (像)] ① 偶像。崇拜される人, または物。(明) ② 人気者。(明)

アイドル・システム [idle (仕事のない, 遊んでいる) system] 【経】不況あるいは受注低下時の切りぬき策の 1 つ。操業や労働時間の短縮によって, 人員整理を避ける代りに, 賃金をさげること。(現) ★[idle < 古英 idel (空虚)].

アイドル・ボール [idle ball] 【庭球】不用の球。(昭)

アイヌ [Ainu < アイヌ(人<男)] 東アジアの古種族の 1 つ。北海道やカラフトに居住。一説に日本列島の先住民族だったという。昔は蝦夷(えみし)あるいは夷(えい)と呼ばれた。(江)

アイネアス [ɛ Aineias] ギッチャ伝説の英雄。ウェルギリウスの叙事詩アエネイスに登場。アエネアスとも。

アイバク [クトゥブ・ウ・ディン ~, Qutb-uddin Aibak ?-1210] インド最初のイスラム教王国(マムルーク朝)の創始者。

アイバンク [eye bank] 眼球銀行。献眼者を予約登録し, 死後その眼球を保存, 角膜移植を希望する盲人にあっせん供給する機関。(現) ★角膜移植術は 1924 年より連で初めて成功。1945 年インターナショナル・アイバンクの本部をワシントンに開設, わが国では

昭和 33 年(1958) 角膜移植法制定。

アイバンホー [Ivanhoe] 英国の作家スコットの歴史小説。1820 年刊。中世の獅子(♂)心王リチャード, 騎士アイバンホー, ロビン・フッドとユダヤ美人レベッカをめぐる恋と武勇の物語。★本邦初訳, 明治 43 年(1910), 小原無絃(東西出版社)。

アイビー・スタイル [ɪ<ivy+style] 若い男性向きの服の型。直線的な外観の背広でウエストはしぼらず, 肩あてもあまり入れない。上着はせまいえり, 3 つボタン, スボンも細く, 靴は無地。(現) ★アイビー・リーグに属する大学生の好みから生まれた流行。

アイビー・リーグ [Ivy League] 米国東部の名門大学ハーバードやエールなどを含むフットボールの競技リーグの名。(昭) ★[ivy (ツタカズラ)] は名門大学の象徴。

アイビー・ルック [ɪ<ivy+look] ⇨ アイビー・スタイル。

アイブロー・ペンシル [eyebrow pencil] まゆ鉛筆。まゆ毛を描く鉛筆型のまゆ墨。(現)

アイヘンドルフ [ヨーゼフ・フォン ~, Joseph von Eichendorff 1788-1857] ドイツの詩人・小説家。ドイツ人の心のふるさとを歌いあげた愛と郷愁の詩人。代表作「偷けしの放浪児」

アイボリー [ivory < 古フ ivoire < ɛ eborum (象牙(ɛ)のような)] ① 象牙。(明) ② ⇨ アイボリー・ホワイト, アイボリー・ペーパー。

アイボリー・ブラック [ivory black] 絵の具の 1 つ。象牙(ɛ)黒。象牙を焼いて作る黒色。(昭)

アイボリー・ペーパー [ivory paper] 象牙(ɛ)色でつやのある厚手の洋紙。略してアイボリー。(大)

アイボリー・ホワイト [ivory white] 象牙のような乳白色。略してアイボリー。(現)

アイモ [㊦ Eyemo] 携帯用の 35 ミリ映画撮影機。米国のペルー・アンド・ハウエル社の製品。小型で操作も簡単なので, ニュース映画の撮影に用いられる。(昭)

アイユ [ɪ ail] にんく。(明)

アイライナー [eyeliner] 化粧料の 1 つ。アイラインをつけるための液状のまゆ墨。(現)

アイライン [eyeline] 目張り。目を大きくみせる化粧法の1つで、上下のまつ毛の生えぎわに、アイライナーで書く線。(現)

アイラッシュカーラー [eyelash (まつ毛) curler] まつ毛をカールさせる化粧用具。(現)

アイランドカー [island (島) car] 交通整理のための特殊自動車。交差点の中央に止めて監視所も兼ねる。(現)

アイランドキッチン [island kitchen] あらゆる部屋に通じるほぼ中央の位置に設置した台所。(現)

アイリス [iris<♀ Iris (虹の女神)] ①【植】アヤメ科の植物の総称、とくに球根性の栽培種をさす。(明) ② 眼球の虹彩(ふく). 眼球の角膜と水晶体との間にある円盤状の膜。(明) ③ 写真機のレンズの絞り。(大)

アイリスアウト [iris out] 【映画・テレビ】画面を中心部にむかってまわりから絞り消していく手法。↔アイリスイン。(大)

アイリスイン [iris in] 【映画・テレビ】画面の中心部からまわりに向かって画面全体をみせていく手法。↔アイリスアウト。(大)

アイリッシュウルフハウンド [Irish wolfhound] 犬の1品種。アイルランド種のウルフハウンド。(昭) ★犬の中でもっとも丈が高く、~~オオカミ~~狩りに使われる。

アイリッシュシチュー [Irish stew] 羊肉のシチュー。ジャガイモ・玉ねぎと羊肉で作ったアイルランド風煮込み。(明)

アイルランド [Ireland<古英 Ireland (アイルランド人の島)] ① 英本国グレートブリテン島の西にある島。英領の北部アイルランドと、アイルランド共和国に分かれる。② アイルランド島の北東部を除く大部分を占める国。アイルランド共和国 [Republic of Ireland]。首都ダブリン。長く英国領だったが、1920年自治領となり、37年完全に独立。住民はケルト族。★一時エール、またはアイルとも称した。公用語英語。通貨ポンド。

アイレット [eyelet] ① 刺しゅう式のかがり穴。(昭) ② ひも穴、はと目。(昭)

アイレーネー [Irene] ⇨イレネー。

アイローション [eye lotion] 美容のための洗眼液。(現)

アイロタイシン [® Ilotycin] ⇨エリスロマイシン。

アイロニー [irony<ラ ironia<♀ eiron (しらばくれる人)] ① ソクラテスの用いた問答法。対象について誤ったことをいい、これを承認するようにみせかけながら、反対の真実を明らかにする論法。(明) ② (転じて)反語。皮肉。あてこすり。イロニーとも。(明)

アイロン [日<iron (鉄、鉄製の器具)<古英 iren] ① 洋式の火のし。普通は「電気アイロン」を示す。(明) ② 髪をちぢらせるのに使うはさみ形のでて。(明)

アインシュタインウム [einsteinium] 人工放射性元素の1つ。原子番号99。記号Es。アインスタイニウムとも。★物理学者の名にちなむ。1952年、米国の水爆実験の灰から発見。

アインシュタイン [Einstein] ① [アルフレッド～, Alfred～1880-1952] ドイツ生まれの米国の音楽学者。リーマン音楽事典の刊行で知られる。② [アルベルト～, Albert～1879-1955] 米国の理論物理学者。ユダヤ系ドイツ人、ナチに追われて米国に帰化。相対性理論で従来の宇宙観に根本的変革を与え現代物理学の基礎を築いた。1921年ノーベル物理学賞受賞。

～賞 アインシュタイン ②の功績を記念して、米国のイエシーバー [Yeshiva] 大学から毎年出される賞。(現)

アイントホーフェン [ウレム～, Willem Einthoven 1860-1927] オランダの医学者。ライデン大学生理生理学教授。心電計を発明、心臓病診断に貢献。1924年、ノーベル生理・医学賞受賞。

アウアー [カール～, Carl Auer von Welsbach 1858-1929] オーストリアの化学者・発明家。マンツルによるガス灯、ライターの発火石などを発明。

アウエンブルッガー [レオポルト～, Leopold Auenbrugger 1722-1809] オーストリアの医学者。胸部打診法の創始者。★父がぶどう酒の樽(ふ)をたたいて量を測っているのにヒントを得たという。

アウグスチヌス [アウレリウス～, ㊦ Aurelius Augustinus 354-430] 古代ローマ末期



のキリスト教の初代教父・神学者。神は人格であり真理のすべてであるとする三位一体論を唱え、後世に影響を与えた。主著「神国論」「告白」★英語ではオーガスティン。

アウグスチノ会 [Augustinian—] 11世紀末に発足したカトリック修道団体の1つ。会則をアウグスチヌスの戒律に求める7つの修道会の総称。1602年この一派のアウグスチノ隠修(しんしゆ)士会が来日、現在も長崎を根拠地に伝道を行なっている。(江)

アウグスツス [う Augustus (尊厳者) 前63-後14] ローマ帝国の初代皇帝(前27年即位)。即位前の名は、オクタ비아ヌス [ガイウス ~, Gaius Julius Caesar Octavianus]。カエサル死後遺言で養子となり、競争相手を制して勝利者となる。皇帝となってからは内政の充実をはかり、平和と繁栄の基礎を築き、ローマ文化の黄金時代を現出。★アウグスツスは元老院から贈られた尊称。月名8月 [August] は、彼の名にちなむ。

アウグストゥス ⇨アウグスツス。

アウグスブルク [Augshurg<Augustus (ローマ皇帝の名)+burg (城)] 西ドイツの商工業都市。ローマ時代から交通の要地として栄えた。★アウグスツスがここに城を築いたところから。

への宗教和議 1555年9月、ドイツの新旧キリスト教派の間に結ばれた宗教上の和解協定。

アウシュビッツ [ド Auschwitz] ポーランド南部の小商工業都市。第2次大戦中、ナチスドイツの重労働収容所と医学実験所が作られ、捕虜とユダヤ人・ポーランド人の大量殺人が行われた。戦後、収容所は博物館となっている。★ポーランド語では、オシュエンチム。

アウス [日<auskratzen<aus (外へ)+kratzen (ひっ掻く)] (子宮からの)掻き出し。妊娠中絶。(現)

アウステルリッツの戦い [Austerlitz—] チェコスロバキア中央部のモラヴィア州アウステルリッツで、1805年ナポレオン(1世)軍がロシア(アレキサンドル1世)・オーストリア(フランツ1世)連合軍に大勝した戦争。三帝会戦とも。

アウストラロピテクス [う Australo-

pithecus (南の人類)] 南アフリカで発見された百万年前の化石人類。類人猿的な特徴をもつが、直立歩行したという点で人類に近い。サルと人類の進化の輪をつなぐ猿人類の1つ。(昭)★1893年、ダートの発見。

アウストロアジア語 [Austroasiatic languages] インドシナ半島中南部からインド東部および中部にわたって点在する諸言語のグループ。ムンダー・モン・クメール語とも。

アウストロネシア語 [Austronesian languages] オーストラリア、ニューギニア、タスマニアを除く南太平洋の島々に分布する諸言語のグループ。マライ・ポリネシア語族とも。

アウセンラゲ [ド Aussenlage] 【スキー】外傾姿勢。上体が谷に傾いた状態。(昭)⇨アンギュレーション。

アウタルキー [ド Autarkie (自給自足)<キ autarkia (自律)] 自給自足の経済。他国に依存しないことをたてまえる経済自立政策。(大)

アウトイング [outing (外出, 遠足)] 軽快な外出着。(現)

アウト [out] ① そと。外方。⇨イン。(明)

② 庭球・卓球などで、打ったボールがコート外に出て失点となること。(明) ③ 【野球】打者や走者が失格すること。⇨セーフ。(明)

④ 【ゴルフ】18ホール中、前半の9ホールズ。⇨イン。(昭)

アウトウェア [日<out+wear] 上着の総称。カーディガン、コート、スーツ、セーターなど。(現)

アウトエッジ ⇨アウトサイドエッジ。

アウトオブバウンズ [out-of-bounds]

① 【バレー、バスケットなど】ボールまたは競技者が場外に出ること。反則の1種。(大)

② 【ゴルフ】プレーすることを禁じてある地域。アウトバウンド、OBとも。(明)

アウトオブプレー [out of play] サッカーなどで、競技の一時停止の状態。(明)

アウトカーブ [outcurve] 【野球】打者の近くでホームベースの外側に急に曲がる投球。外曲球。⇨インカーブ。(大)

アウトコース [日<out+course] ① 【野球】外角寄りの球道。⇨インコース。(大)

② 陸上競技・競馬などの円形の競技場で、

外側の走路。⇔インコース。(昭)

アウトコーナー [outcorner] 【野球】 外角。ホームベースの打者に遠い方の角(2)。

⇔インコーナー。(大)

アウトコーナーボール [outcorner ball] 【野球・ソフトボール】 外角球。打者と反対側のホームベースの一端を通る球。⇔インコーナーボール。(大)

アウトサイダー [outsider (局外者)] ① 同業者の、協定や組合に参加しないもの。非組合員、非加盟業者。(昭) ② 常識社会のわくの外にいる人。独特の思想・行動の持ち主。(現)

アウトサイド [outside (外側の)] ⇔インサイド。① 【庭球】 線の外側。(大) ② 【野球】 外角球。(大)

アウトサイドイン [outside in] 【ゴルフ】 打球するとき、クラブヘッドが外側からはいてくこと。⇔インサイドアウト。(明)

アウトサイドエッジ [outside edge] スキーの外側のエッジ(ふち)。足の小指側のエッジ。アウトエッジとも。⇔インサイドエッジ。(昭)

アウトサイドポケット [outside pocket] 【服】 衣服の外側についているポケット。ふつう、略してポケット。⇔インサイドポケット。(昭)

アウトシュート [outshoot] 【野球】 打者の近くで本塁の外側へ自然にそれる投球。⇔インシュート。(大)

アウトドア [outdoor (屋外の)] ⇔インドア。⇔アウトドアゲーム、アウトドアスポーツ。

アウトドアゲーム [outdoor game] 屋外競技。⇔インドアゲーム。(昭)

アウトドアコート [outdoor court] テニスなどの屋外競技場。(明)

アウトドアスポーツ [outdoor sports] 屋外で行なわれる運動競技。代表的なものは陸上競技、サッカー、ラグビー、スキーなど。⇔インドアスポーツ。(昭)

アウトドライブ [outdrive] 【庭球】 打ち勝つこと。(明)

アウトドロップ [outdrop] 【野球】 打者の近くで外側へ急に曲がりながら落ちる投球。邦略してアウトロ。⇔インドropp。(大)

アウトローハイ [out+high] 【野球】 外角高めのコース。⇔アウトロー、インロー。(大)

(大)

アウトバウンド ⇔アウト・オブ・バウンズ ②。

アウトバーン [F Autobahn<Auto (自動車)+Bahn (道)] ドイツ固有の高速自動車専用道路。ヒトラーが1932年から11年間で完成。中央に緑地帯を持ち、全長3860km。(昭) ★文字改革、フォルクスワーゲンとともに「ヒトラーの三大遺産」といわれる。

アウトフィット [outfit] 【服】 旅行や運動など、特別な場合の服装ひとそろい。(現)

アウトフォーカス [out+focus] 写真・映画撮影で、わざと焦点をはずして写す技法。⇔パン・フォーカス。(昭) ★単なる「ピンぼけ」のことではない。英語ではアウト・オブ・フォーカス [out of focus]。

アウトプット [output] ⇔インプット。① 【工】 出力。(大) ② 【経】 産出。(大) ③ 【電算】 出力装置から情報を人間にわかることば、または記号としてとりだすこと。(現)

アウトボクシング [out boxing] 【拳】 相手から比較的遠い間隔を保ちながら打撃に出る戦法。⇔インファイト。(昭)

アウトポケット [out-pocket] 上着の外側につけたポケット。(昭)

アウトライト取引 [outright transaction] 外貨の調整売買。外貨の過不足を調整するため、余っている手持ち外貨を売り、足りない外貨を買い入れること。(現) ⇔スワップ取引。

アウトライン [outline] ① 輪郭、あらまし。梗(5)概、荒筋、略図。(明) ⇔シノプシス。② 【庭球】 コートの四方をとりまいている線。(昭)

アウトラインステッチ [outline stitch] 輪郭などを現わす線縫いの刺しゅう。(昭)

アウトラン [outrun] スキーのジャンプ競技における着地斜面の圏外、または斜面の終末部、着地後の滑降場。(大)

アウトロー ① [outlaw] 社会の秩序からはみ出た、ならず者、反逆者。(昭) ⇔アウトサイダー。★かならずしも悪い意味で使われるとは限らない。英国のロビンフッドなどはその好例。

アウトロー ② [out+low] 【野球】 外角低めのコース。⇔アウトローハイ、インロー。(大)

アウドロ ⇨ アウトドロップ。

アウフタクト [f Auftakt] 【楽】上拍。拍子をとるとき、指揮棒を下から上へ振って、アクセントのない拍を示すこと。(弱拍の意味で使うこともある)。(大)

アウフヘーベン [f Aufheben (上へあげる)] 【哲】止揚、揚棄。矛盾対立する2つの概念を、両者を包含するより高い概念に統一し発展させること。(大) ★ヘーゲル以後、弁証法における重要な哲学用語。マルクスは唯物弁証法で用いた。

アウレリウス ⇨ マルクス・アウレリウス・アントニヌス。

アウロス [f aulos (葎(♫))] 【楽】古代ギリシアの、弦楽器キタラやリラと並んで、代表的な管楽器。2本の縦笛を同時に吹くようにできている。(昭) ⇨ キタラ, リラ。

アウロラ [う Aurora] ① ローマ神話の暁の女神。ギリシア神話のエオス。(明) ② ⇨ オーロラ。

アエネアス [う Aeneas] ⇨ アイネイアス。

アエネイス [う Aeneis] ローマのベルギウス作の叙事詩。前20年ごろの作。全12巻、未完。トロイアの名将アイネアスがトロイア戦争後、苦難と漂流の末イタリアを征服するローマ建国物語。

アカイア人 [Achaean] 古代ギリシア人の一種族。前2000年ごろギリシアに南下定住。ミケーネ文明を形成した。★ホメロスの詩においては、ギリシア人の総称として使われる。

アーガイル-チェック [argyle check < Argyll (スコットランドの部族の名)] 算盤柄(♠♠)。はでなダイヤ柄。セーター・靴下などによく使われる。ダイヤモンド・チェックとも。(現)

アカウンティング [accounting] 【電算】使用料金の計算。計算時間や仕事の優先度などから計算される。(現)

アカウント [account < 古 comptum (勘定)] 【広】広告主、得意先。(現)

アカウント-エグゼクティブ [account executive] 広告業者を代表して、得意先の広告計画に参画する連絡担当者。略称AE。(現)

アガーカーン [Agha Khan] 回教シーア宗イスマイリ派の教長の称号。世界的な富豪

として有名。現存しているのは4世。

アカシア [acacia < 古 akakia] 【植】マメ科の常緑高木。アフリカ、オーストラリアを中心とする熱帯に多い。(明) ★日本で街路樹などに使われているものは、ニセアカシア(ハリエンジュ)。

アーガス [Argus < 古 Argos] ギリシア神話で、百眼の巨人。

アガディール事件 [Agadir—] 1911年、第1次大戦直前に、発した独仏間の衝突事件。別名、第2回モロッコ事件。

アカデミー [academy < 古 akademeia] ① 学士院、翰林院。学問・芸術における各分野から最高権威を集めて作った団体。(明) ★近世における最初の科学アカデミーは、1470年、フィレンツェにコシモ・デ・メディチにより創設された。② 大学、研究所など、専門的な学問研究にたずさわる機関の総称。(明) ⇨ アカデミア。

王立舞踊 ⇨ ロイヤル・バレエ。

～学派 プラトン哲学を奉ずる一派。(明) ～賞 [Academy Award] 米国で最も権威ある映画賞。1928年創設。(昭) ⇨ オスカー。

アカデミア [f akademeia] プラトンがアテネ郊外にたてた学園。前387年ごろの創設。(明) ★英雄アカデモスの聖域にあったところから、アカデミーの語源。

アカデミア-ナウク [o Akademiya Nauk SSSR] ソ連科学アカデミー。(現) ★帝政ロシア時代(1725年)ペテルスブルクに本部を、モスクワに支部を置いて発足。革命後、本部をモスクワに移し、拡充改組された。

アカデミシャン [academician (アカデミーの人)] ① 学士院、翰林院の会員。(明) ② 大学その他高等教育機関で教育をうけ、またその機関に所属している人という意味で、大学の教員。(明) ★ヨーロッパではさらに学生をもさす。

アカデミズム [academism] ① 俗におもねらない非実用的、基礎的、精緻な研究方法を重んずる学風。(明) ② 伝統墨守、権威主義的な研究態度に対する非難をこめたよびかた。(明) ★英語では、普通アカデミズム [academicism]。